

## 令和元年度病虫害発生予報第3号

長崎県病虫害防除所長

## 【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病（葉いもち）	並	並
	紋枯病	並	並
水稲共通	ヒメトビウンカ（技術情報第1号）	並	並
	縞葉枯病（技術情報第1号）	少	少
	ツマグロヨコバイ	並	並
	萎縮病	並	並
	セジロウンカ	並	並
	トビイロウンカ	並	並
	コブノメイガ（防除情報第6号）	やや多	やや多
いちご （育苗床）	うどんこ病	少	少
	炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ）	並	並
	ハダニ類（防除情報第3号継続）	多	多
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病	並	並
	黒点病	並	並
	ミカンハダニ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	ヤノネカイガラムシ	並	並
びわ	がんしゅ病	やや少	やや少
	灰斑病	やや多	やや多
	ナシヒメシンクイ	並	並
なし	黒星病	やや少	やや少
	ナシヒメシンクイ	並	並
ぶどう	べと病	やや少	やや少
	黒とう病	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	並	並
果樹共通	カメムシ類	少	やや少
茶	炭疽病	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	少	少
	チャノコカクモンハマキ	やや多	やや多
	チャノホソガ	並	並
	カンザワハダニ	やや多	やや多
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多
	クワシロカイガラムシ	やや少	やや少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

**早期水稲**

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（39筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.0%、発生圃場率0.2%）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.0%）。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである（葉いもち感染好適条件判定モデルによる。好適条件等の詳細は病害虫防除所ホームページを参照）。

	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	巖原	芦辺	福江	大瀬戸	口之津
6月1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月4日	●	—	●	—	—	—	—	●	—	●
6月5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月7日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月8日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
6月9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月15日	4	—	—	—	—	—	—	—	—	●
6月16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

発生指標	?:判定 不能	—:好適 条件なし	1:準好 適条件1	2:準好 適条件2	3:準好 適条件3	4:準好 適条件4	●:好適 条件
------	------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	------------

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（39筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

**水稲共通**

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 ヒメトビウンカ 並  
縞葉枯病 少

## (2) 予報の根拠

- ア 6月前期の巡回調査(39筆)の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は48.7%(35.9%)であった。縞葉枯病の発生は認めなかった(過去10か年平均 発生株率0.0%、発生圃場率0.2%)。
- イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.2頭(0.4頭)であった。縞葉枯病の発生は認めなかった(発生を認めない)。
- ウ ヒメトビウンカ(第1世代)の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況については令和元年6月17日付け**病害虫発生予察技術情報第1号**による。

## 2. ツマグロヨコバイと萎縮病

### (1) 予報内容

発生程度	ツマグロヨコバイ	並
	萎縮病	並

### (2) 予報の根拠

- ア 5月下旬のイネ科雑草地(3地点)から採集したツマグロヨコバイ(第1世代)についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%(0%)であった。
- イ 6月前期の巡回調査(39筆)の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は38.5%(29.8%)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.8頭(1.9頭)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

## 3. セジロウンカ、トビイロウンカ

### (1) 予報内容

発生程度	セジロウンカ	並
	トビイロウンカ	並

### (2) 予報の根拠

- ア セジロウンカはネットトラップ(諫早市)において6月6日に初誘殺を確認した。トビイロウンカは予察灯(五島市)において6月7日に初誘殺を確認し、平年より早かった。
- イ 6月前期の巡回調査(39筆)の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は35.9%(22.7%)であった。トビイロウンカの発生は認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.7頭)であった。トビイロウンカは発生を認めなかった(発生を認めない)。

### (3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する(病害虫防除所ホームページ参照)。

## 4. コブノメイガ

令和元年6月17日付け**病害虫発生予察防除情報第6号**による。

## いちご

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度 少

#### (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(30筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率5.3%、発生圃場率29.7%)。

### 2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(30筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、育苗床の除草を徹底するなど、環境整備に努める。

イ 育苗床は全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。また、雨よけ施設がある育苗床ではビニール展張を行う。

ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置せず、適切に処理する。

エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に薬剤散布を行う。

### 3. ハダニ類

令和元年5月16日付け**病害虫発生予察防除情報第3号**を継続。

なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

#### (1) 発生状況等

6月前期の巡回調査(30筆)の結果、寄生株率は13.9%(4.8%)、発生圃場率は70.0%(36.1%)であった。

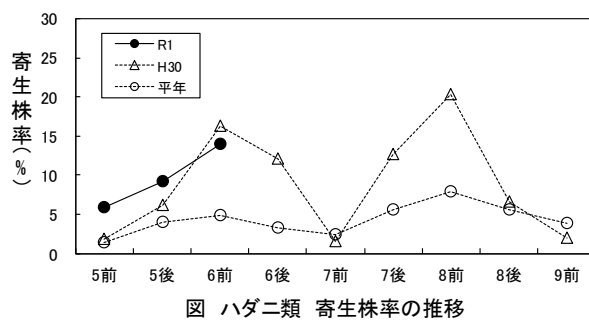


図 ハダニ類 寄生株率の推移

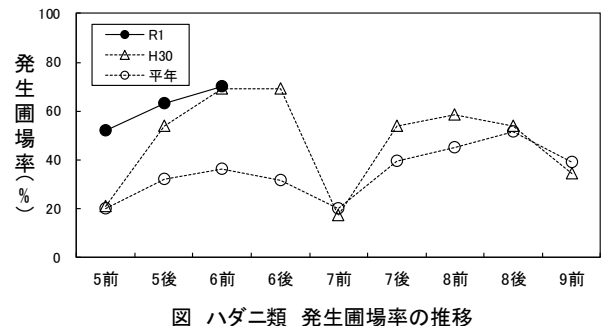


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

## アスパラガス

### 1. アザミウマ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は11.9頭(20.0頭)、発生圃場率は83.3%(69.9%)であった。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は2.8%(6.1%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は8.3%(6.2%)、発生圃場率は50.0%(39.4%)であった。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(被害果率0.0%、発生圃場率0.3%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市小船越町)による誘殺量は、平年並で推移している(図)。

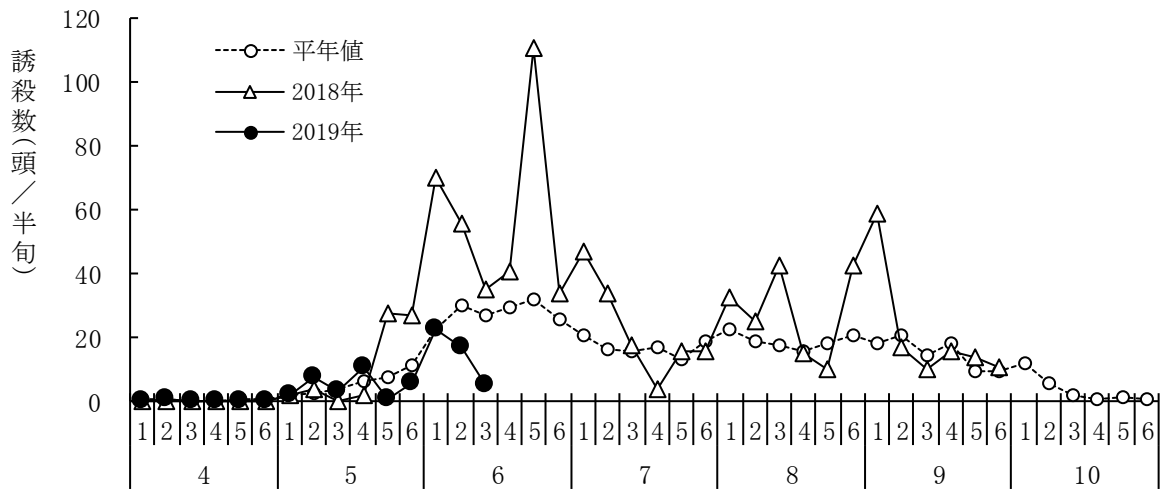


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (諫早市小船越町:黄色粘着トラップ) (月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日は、平年より4～10日程度早まる見込みである(表)。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸
第3世代	<b>6/26</b>	<b>6/27</b>	<b>7/5</b>	<b>6/28</b>	<b>7/8</b>
〃 (平年)	7/1	7/7	7/9	7/2	7/14
〃 (前年)	6/25	6/28	7/3	6/26	7/7
第4世代	<b>7/15</b>	<b>7/17</b>	<b>7/24</b>	<b>7/16</b>	<b>7/27</b>
〃 (平年)	7/20	7/26	7/28	7/21	8/2
〃 (前年)	7/14	7/18	7/23	7/15	7/27
標高(m)	27	4	43	10	58

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2019年6月13日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

5. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(寄生果率0.0%、発生圃場率0.3%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除適期はIGR系は幼虫初発日から15～20日後、有機リン系は幼虫

初発日から35～40日後である。IGR剤の防除を行わず有機リン剤で防除を行う場合は防除時期が遅れないようにする（病害虫防除所ホームページの「ヤノネカイガラムシ予測初発日」参照）。

イ 山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

## びわ

### 1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（発病枝葉率0.6%、発生圃場率28.8%）。

### 2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生枝葉率は9.0%（4.4%）、発生圃場率は100%（66.3%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

梅雨期の雨により発生が助長されるため、殺菌剤を散布して新葉の感染を抑制する。

### 3. ナシヒメシンクイ

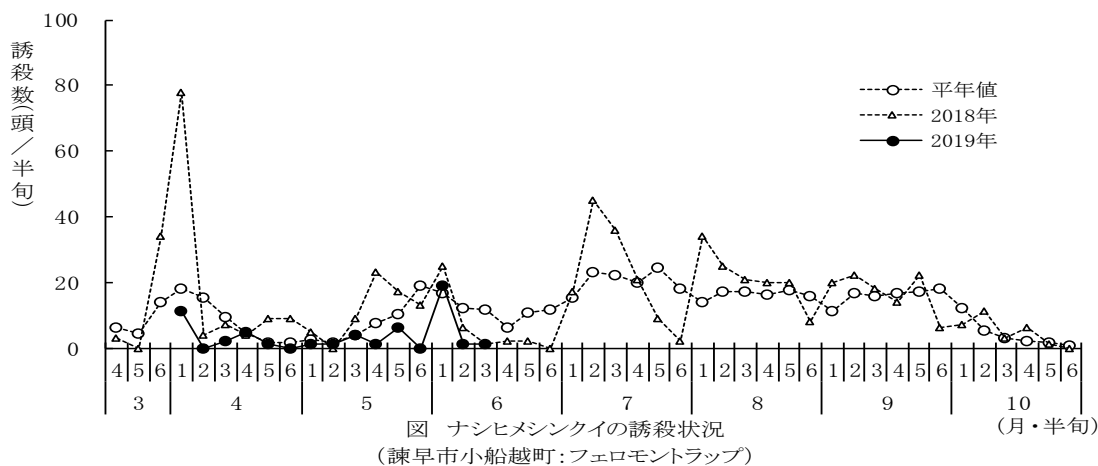
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%）。

イ 諫早市小船越町、長崎市茂木のフェロモントラップの誘殺量は平年並で推移している（図）。



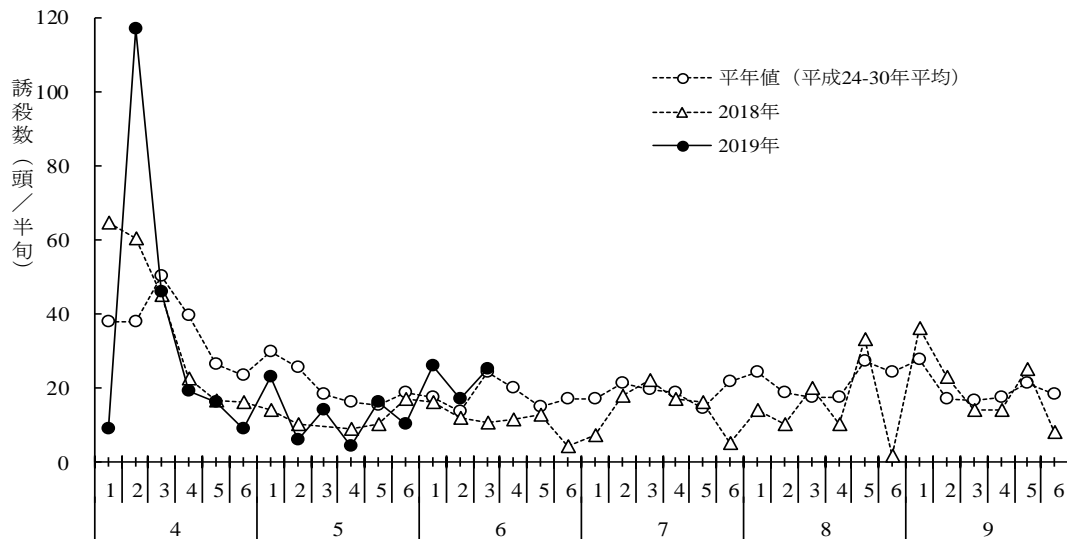


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況 (長崎市茂木・フェロモントラップ) (月・半旬)

なし

### 1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.9%)、発生圃場率は16.7%(38.9%)であった。

### 2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去3か年も発生を認めない)。

イ フェロモントラップ(諫早市小船越町)での誘殺量は平年並で推移している(びわの項参照)。

ぶどう

### 1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率6.3%)。

### 2. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、葉と果実の発生を認めなかった(発病



葉率0.3%、発生圃場率13.5%、発病果房率0.7%、発生圃場率8.3%）。

### 3. チャノキイロアザミウマ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（被害果房率0.1%、発生圃場率3.1%）。

イ 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年並で推移している（かんきつの項参照）。

## 果樹共通

### 1. カメムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

ア フェロモントラップの誘殺量は、諫早市、南島原市、西海市で平年より少なく推移した（図）。

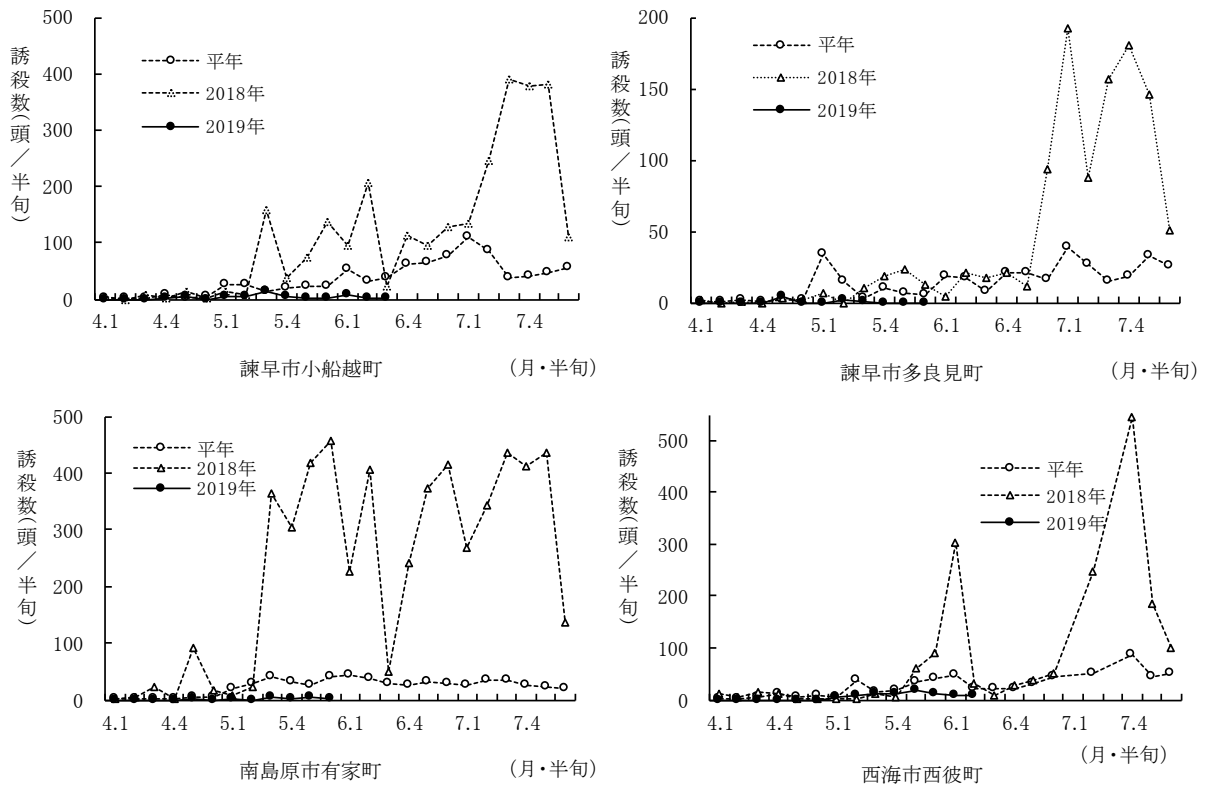


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

## 茶

### 1. 炭疽病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡当たり発病葉数は0.1枚

(1.5枚)、発生圃場率は10.5% (34.0%)であった。

## 2. チャノキイロアザミウマ

### (1) 予報内容

発生程度 少

### (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(19筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は4.3頭(29.2頭)、発生圃場率は68.4%(92.5%)であった。

## 3. チャノココクモンハマキ

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(19筆)の結果、1㎡あたり巻葉数は0.3枚(0.0枚)、発生圃場率15.8%(4.4%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、5月2半旬にピークが見られ、平年より多く推移している(図)。

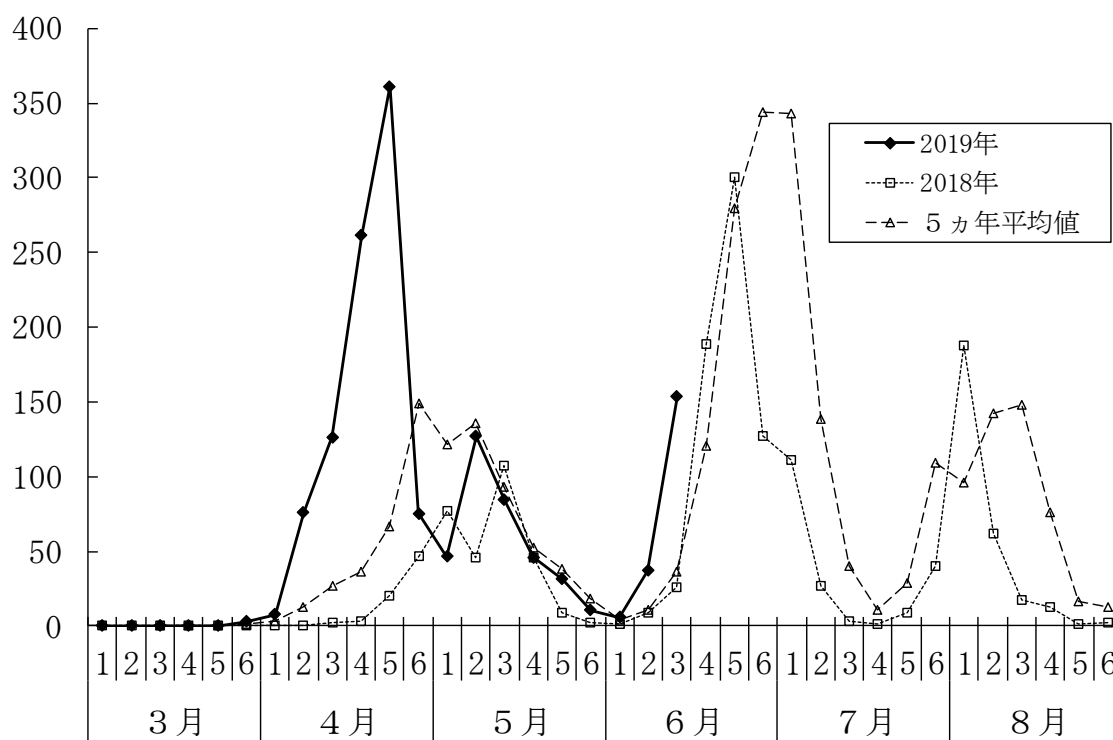


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

### (3) 防除上注意すべき事項

フェロモントラップにより発生消長を把握し、巻葉前に薬剤防除する。

## 4. チャノホソガ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(19筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡あたり巻葉数0.1枚、発生圃場率5.6%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、6月1半旬にピークが見られ、平年並に推移している(図)。

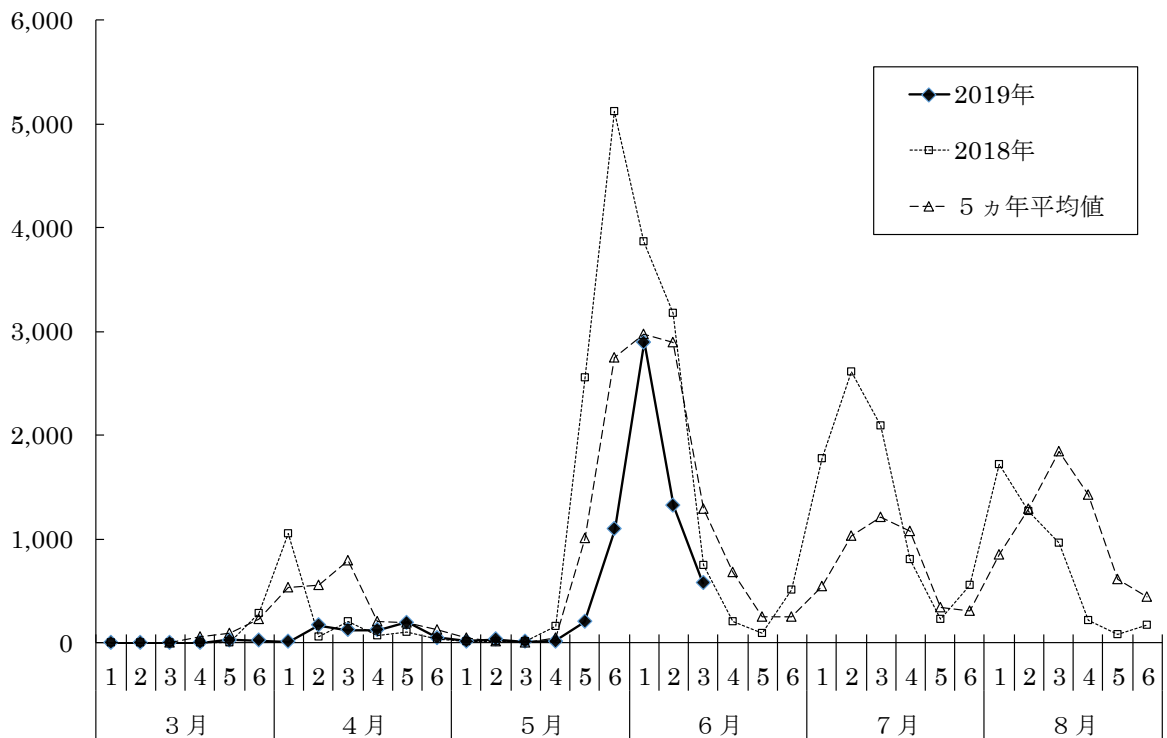


図 チャノホソガの誘殺状況 (東彼杵：フェロモントラップ)

#### 5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(19筆)の結果、寄生葉率は7.6%(4.1%)、発生圃場率は63.2%(32.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。

イ 薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

#### 6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(19筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は10.0頭(3.8頭)、発生圃場率は94.7%(57.5%)で、一部多発生圃場があった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

#### 7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(19筆)の結果、寄生株率は4.7%(8.7%)、発生圃場率は21.1%(44.0%)であった。

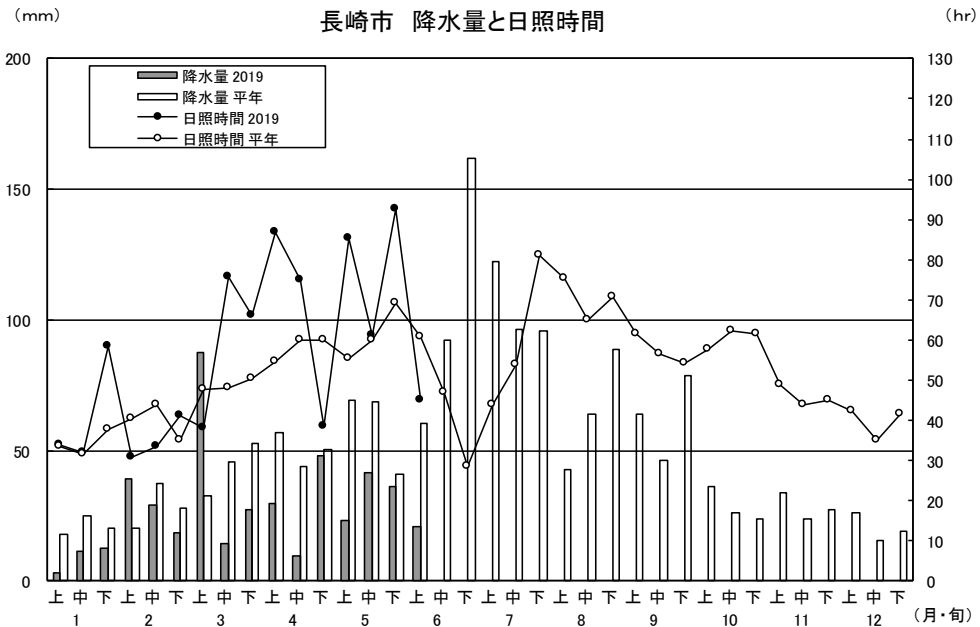
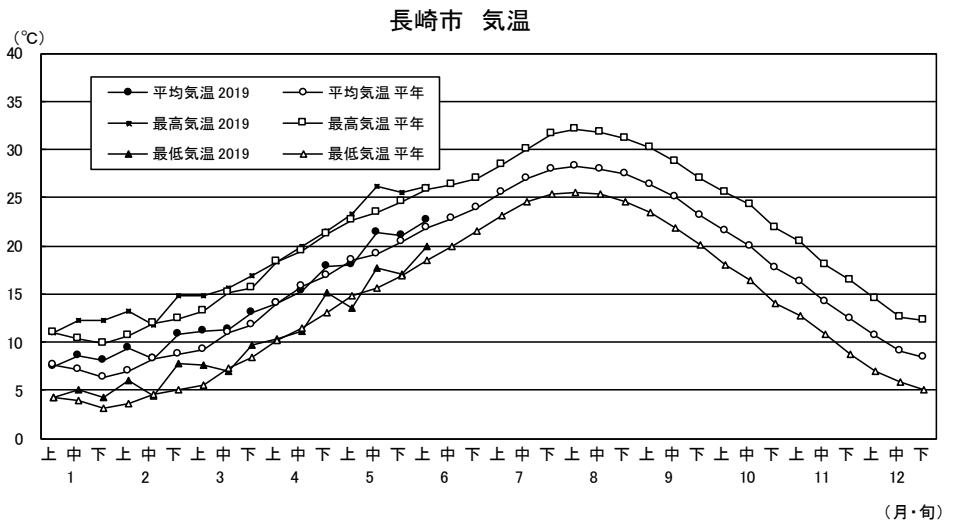
【参考】

(令和元年6月13日発表 1か月予報 福岡管区気象台)  
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	50	40	10
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

※予報対象地域：九州北部地域

令和元年の気象経過（長崎地方気象台）



○6月1日から8月31日までの3か月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

